

短期海外派遣報告書

神戸市立医療センター中央市民病院 看護部

濱田麻美子

この度、2016年10月7日～11日にコペンハーゲンで開催されました ESMO2016 に JACCRO 短期海外派遣制度にて参加する機会をいただきました。その報告をさせていただきます。

10月7日夜にコペンハーゲンに到着し、翌日より **Special Symposium** や主に消化器系のセッションを中心に参加しました。広い会場と参加者の熱気に圧倒されながらも、ニューハウンの図柄や箱いっぱいの林檎に癒されながらの毎日でした。

日々の外来での勤務の中では大腸がんの患者に関わることが多くあります。そのようなこともあり、一番印象に残った発表は、10日の **Special session** の「大腸癌における原発巣位置の違いは治療方針に影響を及ぼすか」でした。今年度の ESMO では既報の第Ⅲ相試験における左右差の後解析が実施されました。右に発生する結腸癌は、女性、**BRAF**mutation、**CIMP**high などが多いこと、一方で左に発生する結腸癌は、男性、**CIN** 陽性が多いことが挙げられていました。また発生の違いなどについても説明がありこれらが予後や治療の成績に影響を与えている可能性があるとのことでした。その結果、右側結腸は予後不良因子であること、抗 **EGFR** 抗体薬の効果が乏しいことが確認され、今後は治療レジメンを選択する上で考慮されなければならない因子となっていくと見えます。**session** のなかでは、**PRIME** 試験や **CRYSTAL** 試験の解析報告もありました。国内の講演会などでもサブ解析として性別や原発巣の部位によって治療効果が異なることなどは発表されており、経験知としても理解はしていましたが、今回の発表を聞き、改めて納得することができました。しかし、今回の報告をもとに、右は **Bevasizumb**・左は抗 **EGFR** 抗体薬と治療レジメンが単純に決まるものではありません。看護師の役割としては、こういった臨床試験の知識を持ちながら、患者の **ADL** や **PS**、価値観を知り、治療のゴールをどこに見据えるかを患者や家族と相談し、医療チームの一員として患者の意思決定（治療レジメンの決定）に参画していただくことが求められると考えます。

この度 ESMO に参加させていただき、このようにして治療が進歩していくということを改めて感じることができました。また、ポスター発表では、支持療法についても多くの掲示があり興味深く拝見しました。当院でも多くの治験・臨床試験が実施されています。今回の ESMO で得られた知見をスタッフと共有し、より良い治療環境を患者に提供できるように、看護管理者として専門看護師として今後も努力を続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただきましたこと、JACCRO 関係者の皆様に感謝申し上げます。